

# さあ、共生の風をおこそう！アジアがステージ

## 第19回大分県豊の船に参加して

～韓国・ミレニアム女性事情～



「ドゥマーン」ボランティア編集委員 早田 久仁子さん

### メインテーマは「さあ、共生の風を起こそう！」

「さあ、共生の風を起こそう！アジアがステージ」をメイン・テーマに2000年10月3日～6日の日程で大分県豊の船に参加して釜山市、蔚山市、慶州市を訪問しました。この船は、男女共同参画社会に向けて、学び、語り、交流し、グローバルな視点で体験できるという魅力ある研修でした。

因習に振り回されて逝った祖母世代。それをなお引きずりながらも「私自身はいったい何？」と感じている母世代。まだまだ寿退社が多かった私たちの世代。“何か違う”と気づき、絡んだ紐を解くように、身近なことから学び始めて20年。この船に乗ることで、さらに確認を深めるため参加しました。

### たくましい韓国の女性たち

中国、朝鮮半島、日本は東アジア儒教文化圏というくり方があります。徹底的な儒教文化を守って生きている女性たち。結婚制度は男の血を守るためにあること、結婚後も別姓なのに、日本のように娘に婿養子を迎えることはできないこと、美学の点からも花は満開、月は満月だけを美しいとする考え方などの中で、生きることへのパワーはすごいと、感じました。

蔚山市での講演会では、李教授が両国の女性文化など、はっきりと違う点を例に挙げて話され、「今までは男性中心の片手だけの文化、21世紀は女性参画の両手の文化を生み出しましょう」と激励していただきました。男子を産まない生きにくかった女性たちも、日本よりはるかに制度化されている法律を生かして、自分らしく暮らしていました。交流会で出会えた韓国の女性たちは、それぞれが、キャリアで自分らしく、たくましいエネルギーをもって、日々暮らしていることが伝わってきました。

反面、法律はあるけれど、まだまだ機能せず悩み苦しんでいる人たち、特にドメスティックバイオレンス（夫やパートナーからの暴力）から逃れるために戦っている女性たちがいることも、知りました。

### 自ら行動することが共生社会への第一歩

帰路での「男女共生研修」では、講師の住田裕子さんが「なぜ今、男女共同参画なのか」を、法律制定までの思いや条文に込めた意義などを含めて分かりやすく説明して下さいました。さらに分散会では、それぞれの生活の場や活動の場でまず気づくように、自ら行動していくことが共生社会への第一歩と確認。「誰もが気づくために、そのきっかけとなるための場所、拠点作り（女性センターなど）には協力し、ネットワークの手を結びましょう」と声があがりました。

今回の豊の船では、県内の多方面で意欲的に活動している方たちとも知り合うことができ、その方たちのひたむきなエネルギーは、十分に伝わってきました。私にとってもこの気運、エネルギーを追い風にして、一人ひとりの意識の喚起のために活動しながら、次の世代につなげていきたいと再確認できた意義ある研修でした。



参加した皆さんと船上で（左端が早田久仁子さん）